グループホームこころ

平成２１年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471901429	事業の開始年月日	平成14年5月1日
		指定年月日	平成20年5月1日
法人名	社会福祉法人　湘南福祉協会		
事業所名	グループホーム　こころ		
所在地	（　〒237-0063　） 神奈川県横須賀市追浜東町１丁目３２番地		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	☑　認知症対応型共同生活介護	定員　計　8　名 ユニット数　1　ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果 市町村受理日	平成22年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://center.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

穏やかで家族的な雰囲気をモットーとしている。
近隣の商店から良い食材を取り寄せ、手作りの食事が提供できるように心掛けている。また、メニューも豊富である。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価機関 評価決定日	平成22年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

◆事業所の理念に基づき、個人の尊厳に配慮し、利用者との一対一の関わりを大切にし、利用者の思いや意向の把握に努めている。
◆運営推進会議では、町内会役員や民生委員と、地域の一人暮らしをしている高齢者への対応など、地域の福祉課題を話し合っている。また、中学生の体験学習の受け入れや、散歩・散髪・絵手紙・折り紙・コーラス等のボランティアの協力を得るなど、地域との交流を図っている。
◆災害発生時に備えて、夜間想定訓練に、近隣マンション、併設の生活支援ハウスの住民も参加して実施している。
◆利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医への受診ができ、また、協力医療機関である同一法人の総合病院と連携を図り、利用者の健康管理に努めている。
◆食事は、地元の商店で購入した食材を使い、優しい味を心がけている。うどんを蕎麦に変える、お汁粉をおやつに出す、外食や出前など、利用者の希望を入れて、臨機応変に対応している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ　理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ　アウトカム項目	56 ～ 68	

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

グループホームこころ

事業所名	グループホーム　　こころ
ユニット名	

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	2．利用者の2/3くらいの
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
		○	3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度ある
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1．ほぼ全ての家族等が
		○	2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	運営理念を職員室に掲示し、引継ぎや職員会議時に確認している。 〔いつも笑顔でお手伝いいたします〕 ①人としての尊厳を守ります　②個人の意見を尊重します　③安心して日常生活を送っていただけるようにお手伝いをいたします。	「いつも笑顔で」を理念に掲げ、初任研修や職員会議等のテーマとして取り上げ、理解を深めている。一人ひとりの意見の尊重や尊厳を守るため、「押し付けない言葉遣い」を管理者は職員に指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入っている。お祭りにはお神輿に寄ってもらい、ご祝儀を渡してもらっている。お祭りに行きお神輿や山車を見に行っている。近隣のボランティアによる散歩・折り紙・散髪等を行っている。夜間避難訓練では近隣の方による協力が得られている。	自治会に加入し、神社の祭礼時は神輿が来訪してくれる。併設のデイサービスのコーラス等への参加や、絵手紙等のボランティアの来訪などを通して、地域との交流を図っている。また、避難訓練には近隣住民も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で町内役員（福祉担当者）の方や民生委員の方が参加されることで、地域の方たちで問題になっていることを相談されたり話し合っている。夜間想定避難訓練では認知症の方を抱えている家族の参加があり、良かったと話されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族会、イベント、運営推進会議、インフルエンザ予防、外部評価、情報公表制度、日々の様子や身体状況、入居者や職員の動向等報告し、意見を聞き、職員間でも話しあったり取り入れている。昨年は夜間想定避難訓練が大きな取組みであった。	利用者家族、町内会福祉担当者、民生委員、市及び地域包括支援センター職員等が参加し、事業所からの状況報告のほか、町内会福祉担当者や地域代表から地域の一人暮らし高齢者への対応等の地域状況の報告もあり、地域全体の福祉課題を共有する場になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市認知症対応型共同生活介護連絡協議会や研修参加、生活保護関係、介護保険更新の際の認定調査立会い等を行っている。	市からの紹介で中学生の体験学習を受け入れている。横須賀市認知症対応型共同生活介護事業者連絡協議会（年４～６回）や同会主催の研修会に出席の際に、市の職員と意見交換をしている。市生活福祉課とは入居相談等をしている。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内外部での研修を受けている。ケースによってはその都度話し合っている。玄関の施錠について：当施設前は急な坂でスピードを出している車の交通が多いため、家族に口頭による説明で理解を得ている。	取扱要領を整備するとともに、法人内や外部の研修に参加している。立上がり補助のベッド２点柵が身体拘束に該当するか検討したり、「ダメ」という言葉は使わないなど、言葉による規制を含めて拘束をしないケアを心がけている。玄関は家族に説明した上で施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	内外部での研修を受けている。ケースによってはその都度話し合っている。虐待防止シートにより点検を始めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内外部の研修を受けている。また、当施設の運営理念や法人の運営理念を念頭においている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	不安や疑問点についてその都度聞き、理解・納得がいくまで説明を行うように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者のみならず、職員も常に聞ける体制をとっている。利用者であれば１対１での関わりも大事にしている。家族会では家族間の関わりを持ってもらい、意見や情報の交換をしていただいている。事業所運営推進会議のメンバーに家族代表者が参加している。	家族会（年４回）は、昼食会・茶話会を兼ねて開催し、家族同士の交流や話し合いを促し、家族が意見等を出しやすいよう工夫をしている。家族会の後は、管理者が居室で個別に話を聞く時間を作っている。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は忘年会や新年会を開催し、又は施設に訪問する機会があり意見を伝えられる機会がある。管理者は普段はもとより、職員会議やミーティング時にも設けている。	全職員が参加して開催する毎月の職員会議や、毎日の朝夕の申し送り、ミーティングを通し、意見交換を行っている。理事長やケアセンター所長に意見を伝える機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与については福祉全体のアップが今年度あり、定期的な昇給も継続されている。資格取得への道が開けている。勤務では希望に沿った休みが取れたり、必要に応じた勤務体制の調整を行うようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外部共の研修が受けられるようになっている。また、資格取得についても十分に配慮されている。有料の研修にも参加のチャンスがあり、実際に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市認知症対応型共同生活介護連絡協議会の研修参加や交流研修、地域の運営推進会議での関わりによりネットワークづくりや勉強会が行われている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅・入院先・入所中などの施設訪問等を行っている。１対１での話す機会を設けている。本人が十分な訴えができないときには、家族や関係者からも話を聞くようにしている。		

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族と密に連絡し、話し合っている。また、家族からの問い合わせはいつでも受けられるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族からの話しを充分に聞き、必要としている支援を見極めている。ボランティアや介護タクシーなどの利用。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	紙モップ拭きや洗濯物畳み・食器拭きなどのお手伝いをしていただき、職員の感謝の気持ちを伝えている。常に会話を楽しみ、時にはスキンシップも見られている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と話しをする時間を少しでも持てるようにし、理解しようと努力している。問題があった時には連絡を取り合い、どうしたらよいか話し合う。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人、宗教関係者の方の来所も快く受け入れている。絵手紙を節目に送っている。	生活歴や馴染みの人や場をアセスメントで把握し、入居前からの知人等の来訪があったり、利用者からは季節ごとに絵手紙を送っている。来訪者には、「また来て下さい」等の言葉かけをするなど、来訪しやすい雰囲気作りに努めている。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個人の意見を尊重しながら支援している。全員でできるレクリエーションでも参加したくない方は個別に職員が対応したり、時間を置いて再度誘っている。職員が間に入り声掛けや調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後に障害手帳申請などの相談を受けて対応している。また、退所した家族が散歩ボランティアとして来所されている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事内容や時間、起床や就寝時間、入浴時間（日中内で）や日にちの変更、午睡など本人の意向に沿えるように話したり、会話から汲み取れるようにしている。対応に困ったときには職員間で話し合い、共有している。	日常の生活の中から、夜勤者は２時間ごとに各利用者の気づきを記録し、朝夕の申し送りで情報を共有するなど、日常感じたことは職員間ですぐに話し合うことにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、ケアマネジャー、サービス事業担当者等から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	引継ぎ、職員会議、日々の支援の時に把握し、職員間で話し合っている。客観的な観察をするように努めている。		

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	できるだけ沿うように話し合い、反映させるように努力をしている。	利用者・家族の意向、職員の意見をもとに、計画作成担当者である管理者が介護計画を作成している。日々の利用者との関わりを通した職員の気づきや日々変化する状況の記録を、６ヵ月ごとに行う介護計画の見直しのデータにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録に日々の様子を記録している。職員で共有することや介護注意点等については申し送りノートを利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	隣接する生活支援ハウスの入居者との関わりやデイサービスのコーラス等を聴きに行ったりする。今後も新たなニーズに対して、柔軟な対応がとれるように努力をしたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの利用（散髪・絵手紙・折り紙・散歩）、消防訓練参加、中学生の体験学習、歯科大生の研修を継続して受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の湘南病院の内科医や在宅からの主治医の訪問診療を受けている。訪問歯科の訪問診療を受けている。	入居前からのかかりつけ医を利用することができる。また、同一法人の協力医療機関の往診が月１回、訪問歯科（年２回）がある。受診状況を、家族に説明している。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	管理者が看護師であるので、日々のことについて報告がある。法人内の湘南病院や訪問看護ステーションの看護師に相談等ができる。迅速な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院から退院まで主治医・看護師長・看護師・医療相談・PTなど連携を図り、面談やリハビリの状態の見学・相談等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人・家族・主治医と早い段階で話し合いを持っている。事業所は職員間で話し合い方針を決め、本人・家族や主治医と共有し検討する。また、地域包括やケアマネジャーからの情報も得ている。	現時点では、終末期ケアに取り組みたいが、職員育成や居室の段差構造等の課題があることを、家族会や運営推進会議等で説明している。終末期ケアの研修に参加しており、今後は、医療連携体制加算の体制整備を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な訓練は行ってはいないが、利用者の状態や状況に応じて対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練は年２回行っている。今年度に夜間想定避難訓練を隣の施設（生活支援ハウス）と近隣のマンションの住民の協力を得て行っている。消防署には事前相談や計画書の提出を行っている。	緊急対応マニュアルを整備し、避難訓練を年２回実施している。夜間想定訓練には、併設の生活支援ハウスと近隣マンションの住民も参加している。階下のボランティア活動室が地域の指定避難場所となっており、家族に説明している。３日分の食品・水、オムツ等の備蓄がある。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	笑顔で穏やかな言葉掛けと接し方をする。また、個々にあった尊重した言葉使いをするように心掛けをしている。個人記録等は職員室に保管している。	理念に基づき、利用者の尊厳、個人意見の尊重を大切にしており、「○○してあげる」を禁句とし、押し付けの態度や上から目線、友達扱いをしないよう注意を払っている。入浴・排泄介助時の声かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が大事にされていることや物・考え方について尊重し、無理強いしない。どうしたらよいかわからない時には、職員が１対１で話ができるようにして、本人が決定できるように対応するように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴回数や時間や曜日・食事や内容時間・休息・おやつ内容や時間・レクリエーション内容など希望に添えるように支援するよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	居室の洗面には鏡を取り付けているので、自分で髪を梳かしたり、顔を洗ったりして身だしなみが整えられる。１名車椅子で鏡が見えない方は洗面台に置き鏡を置き整えてもらっている。自分では十分にできないときには、職員が手伝っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	箸や湯のみは本人の物を使用している。調理はしたくないといわれる方ばかりで、学生受け入れ時などに食材を一緒に切ったりすることはある。食器の片付けは毎回一緒に行い、食器やマット拭きは同じ方ではあるが手伝っている。	茶碗、皿を重ねるなど無理強いしない範囲で、利用者に行ってもらっている。利用者の希望により、うどんを蕎麦に変える、お汁粉をおやつに出す、外食に行くなど、臨機応変に対応している。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	野菜中心で魚と肉を交互になるようにしている。ご飯や汁物、おかずは食べられる量や病状によって調整している。むせ込みのある方は「トロミアップ」を使用。塩分調整が必要な方や習慣によってはご飯を最後に食べていただいている方がいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行っている。自立している方、見守りと声掛けの方、自分でしてもらってから歯ブラシを介助する方がいて利用者に応じて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日勤帯でのオムツの使用者はいない。１名退院したばかりなので、夜間帯で使用中。昼夜問わずに声掛け、誘導のタイミングを図りトイレでの排泄に心掛けている。２名は夜間ポータブルトイレ使用中。	排泄状況を記録し、パターンの把握に努め、日中にオムツ使用の利用者はいない。表情やしぐさに注意し、トイレへ行きたくない場合には、声かけや時間をずらして別の職員が対応するなどの工夫をしている。背の低い人に合わせて、低く改造したトイレもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は野菜を多く摂っていただけるように工夫している。水分量を毎回チェックしている。少ないときには変化をつけて、他のものに変えたりしている。 ティータイム時にはコーヒーやジュース類など変化をつけている。散歩や朝の掃除での紙モップ拭き・体操などを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ホーム側で曜日を決め日勤帯で、週２回入ってもらっている。しかし、本人の体調・気分・外出状態で変動している。以前は入浴が嫌いな方がいた時には、曜日・時間・回数を決めないでタイミングを図りながら行った。	入浴は週２回で、介助の程度により時間帯を決めている。利用者、職員ともに女性で、同性介助になっている。入浴を嫌がる場合は、時間帯や曜日を変えるなどの工夫をして対応している。	

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	基本的には本人に合わせている。朝寝ていたければ様子をみながら、寝坊をしてもらっている。昼寝の希望があればしていただいている。夜は寝る時間を無理強いしないで、職員と一緒にテレビを観たり、お茶を飲んだり、話しをしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	自分で飲める方は手渡しをして飲むのを確認。封を切ったり、口の中に入れたり、手に錠剤を乗せたりする介助の方もいる。一人ひとりの調剤明細書を保管し、いつでも見られるようにしている。中止薬や新しい薬は申し送りノートに記載し、上記と共に引き継いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ボランティアの活用（散歩・散髪・絵手紙・折り紙・コーラス鑑賞）、職員との散歩や神社仏閣の散策、外食。食事の工夫としては季節感を取り入れたり、出前なども取り入れている。職員と歌を唄ったり、体操や散歩。入居者の希望を聞くような努力をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い時には散歩（近隣の公園）、ボランティアによる散歩もある。食事会や花見、初詣、遠出の神社や寺の見学。無理強いしないで個別対応している。	ボランティアの協力で、日常的に近くの公園や小学校まで散歩をしている。神社仏閣の見学など利用者の希望により、２駅先のお寺まで車で出かけたり、外食や花見などの外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っている方が３名いる。買い物で使いたい方は職員が一緒に対応している。お金を持っていることが大事であり、毎日・毎晩と勘定することを楽しみにしている方がいる。		

グループホームこころ

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人から電話をしたいと要求することがほとんどない。しかし、家族から電話があるときには本人と話してもらうようにしている。家族には声を聞くだけでよいので、電話をしてくださる様に話している。本人が書いたり、色をぬったりした絵手紙を季節ごとに送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ペットとして金魚を飼っていて玄関先に水槽を置いている。居間に観葉植物を置いたり、生花や花の植木鉢を飾っている。ボランティアの方と書いた絵手紙や折り紙、皆さんの写真の展示をしている。	共有スペースは吹き抜けで、明るい。大型テレビとソファー２脚のほか、畳敷きの部分もあり、利用者は好みの場で過ごしている。コンクリート壁の壁紙の上に、行事写真や折り紙、絵手紙作品を貼り、堅さを和らげる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間には椅子が置かれ好きに座れるようになっている。廊下にソファーを置き、座って写真や折り紙や絵手紙が見られるようになっていて、一緒に座った人と良く話してる。各居室で利用者同士が談話されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れていたり、気に入っている家具・家族の位牌や写真・寝具類・テレビ・置物等を本人や家族と相談しながら置いている。	８室中６室が畳敷きで、茶箪笥、仏壇、テレビ、家族の写真などが持ち込まれている。ベッドを手前に出しその前に置いたポータブルトイレと壁の手すりを使って、自力で移動できるよう工夫した居室もある。入居前に職員が自宅や病院を訪ねて、持込品の助言もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りの設置。居室の段差にも手摺りあり、つかまって自力で上がれるようになっている。廊下はフローリングでフラット。居間と居室すべてに洗面台があり、自分で手を洗ったり、うがいをしたりできる。居室やトイレのドアは引き戸で自分で開閉できる。観葉植物が居間にあり、水をあげられるようになっている。		

目標達成計画書

事業所名　　グループホーム　こころ
作成日：　平成　２２年　４月　９日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	No.40	利用者一人ひとりの介護時間が増え、現状の業務内容では一緒に調理したり、手作りおやつを提供できない。（おやつは市販品が主体となってしまっている）	利用者と一緒に手作りおやつを作り、食事の楽しみを増やす。	2週間に1回手作りおやつを作る。 おやつ作成日：　月曜日又は水曜日 14時から職員増員 （15：45から帰る職員がいるため） 作るおやつは当日か翌日のおやつに使用する。	5月から7月の3ヶ月間 8月の職員会議で再検討
2	No.49	利用者の高齢化、ADLの低下、認知症の進みがみられるために、口腔ケアや各種の処置、トイレ介助等一人ひとりの介護時間がかかるようになった。そのため以前に比べ散歩時間が取りづらくなっている。	利用者のストレス解消やADL維持のために、戸外へ出かけられるように支援する。	毎週日曜日には必ず近隣の散歩をする。 雨天時にはボランティア活動室を利用する。（カラオケやゲーム等） 可能な限り全員で参加する。（無理強いしない）	5月から7月の2ヶ月間 7月の職員会議で再検討
3	No.41	利用者が食事を摂れなくなったり、病気でカロリーコントロールが必要になっているが、摂取量や塩分量の測定ができていない。そのために職員が調理する食事はカロリーと栄養バランスのばらつきがある。	職員の誰が作っても栄養のバランスが取れ、利用者一人ひとりがどのくらいカロリーが摂取できているかが把握できるようになる。	日勤帯の昼食調理時に食材及び調味料等の使用量を計測する。（メニューに記入）	概ね1ヶ月 6月の職員会議で再検討